

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500057		
法人名	医療法人 小寺会		
事業所名	グループホーム 鶴見の太陽		
所在地	佐伯市鶴見大字沖松浦51番地		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500057&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館1F		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①全職員が「思いやりにあふれた介護」「毎日笑いのある生活」「開かれたホーム」を目指し、各々の得意分野を発揮し、仲良く協力しあいながら、前向きに取り組んでいる。
- ②併設施設の医師や職員の協力や指導が得られ、複合施設のため、ボランティアの慰問も多く、色々なイベントも開催され、刺激や楽しみの時間が多く持っている。
- ③温暖な気候で地域の中心部に位置し、スーパーや公共施設が近くにあり、周りは散歩に適した環境である。
- ④施設内は明るく、全体を一目で見渡せ、見守りし易い構造となっており、施設の周囲は花畑や菜園があり、利用者の目を楽しませている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

港町の中心部に位置し、四季の移り変わりを日々の生活の中で感じ取れる素晴らしい環境に恵まれ、利用者や家族の思いが映し出されるように職員の支援体制が伺えると共に、医療、医師の専門職がしっかりサポートされることで、利用者はもちろん家族・関係者にも、安心・安全な表情が伺えます。また、理念を重んじ、職員全員で共有し、理念に則した支援に励んでおられ、地域密着型という意味合いをしっかりと理解され、事業所自ら地域社会の一員として、地域行事への参加、地域の方々の事業所への来所など双方向の交流が伺えると共に、職員の気づき、アイデアを発揮しながら、日々の介護に「微笑み」がたゆまない光景が伺えました。さらに、施設・職員の資質の向上として、研修に積極的に取り組む姿勢が感じ受けられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体の理念をもとに地域密着型サービスとしてのグループホーム独自の理念を作り、日々唱和し、実践につなげています。	就業前において、日々唱和し日常の支援・関わりの中に取り組み、また職員の面接、採用時に於いては理念を説明し、事業所の方向性を理解されているのが伺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より毎月市報を届けて頂き今年は地域の豊魚祭に参加、当施設の夏祭りには地域の多くの方に参加頂きました。地域の老人会のグランドゴルフ大会にも参加させていただき交流を深めています。	広報等による地域への事業参加、また施設の事業を地域に発信をされるなど情報の双方向がなされており、地域との交流が積極的になされているように伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献としてヘルパー実習や中学生、高校生の職場体験学習の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を基に始めた食事作りを週2回から3回に増やしました。施設全体で行う魚の解体ショーや魚料理も喜ばれています。運営推進委員様より提唱された公文の学習療法にも取り組んでいます。	運営推進会議の意見を取り入れ、食事作りや学習療法に取り組みされるなど、推進会議と一体となった事業運営や施設との意見の交流がなされ、利用者の支援に取り組まれているように伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営面等疑問点はその都度市介護保険係に問合せ指導して頂いております。年6回開催する運営推進会議には包括支援センターの職員さんが出席して下さり情報提供やアドバイスをして下さっています。	市職員の実習の受け入れ態勢も出来ており、疑問点などが生じた時は、介護保険係・地域包括支援センターと情報交換・課題の対応に取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の施設内研修に参加し、理解を深め、身体拘束をしないケアを実践しています。自動ドアは原則手動にし、老健施設へのドアも原則開錠して、老健・屋外に自由に入出りできるようにしています。	権利擁護、身体拘束の研修に積極的に取り組み身体拘束ゼロを目指され、事業所・職員一丸となりケアに取り組まれ、また家族にも施設の方向性が理解されるよう対応がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の施設内研修に参加、理解を深めています。日々ケア、対応が虐待に通じていないかお互いに注意を払い職員間で話し合い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について施設内研修や外部研修に参加し、理解を深めています。成年後見制度についてはGH職員で話し合い、以前日常生活自立支援事業を活用する利用者がおられたので紹介しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、不安や疑問点が生じた場合はいつでも問合せを欲しい旨をお話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートボックスを設置しています。利用者様には随時、ご家族様には面会時に要望や意見を聞きだす様努め、意見・要望があれば送りノートで周知、必要に応じカンファレンスを持ち、改善に努めています。	意見・要望等があった場合、マニュアルにて対応できるシステムが構築されています。また、意見等申し出にくい利用者・家族には、施設以外でも意見等が云える制度の説明もなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフカンファレンスや連絡ノートの活用により職員の意見や提案を聞き、運営に反映させています。	月のミーティング等において、支援の方法等について話し合いがなされています。また、施設・上司との連絡ノートを活用しながら、現場での意見を報告されるなど積極的な取り組みが伺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務における個人目標設定や自己他者評価を行う事で、職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、賞与に反映しています。また給与に目標達成手当を設け、各自が向上心を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面接等により職員状態を把握し、段階に応じた研修を受講できる様配慮しています。施設内・法人内で様々な研修を設け、多くの職員が受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・GH大分県連絡会に入会し、研修等に参加、他法人の同業者と交流をしています。最近、近くの他GHに視察に行かせていただき今後の交流の足がかりを付けることができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる様な関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労等を聞き、家族が当事業所に求めているものを理解し、事業所としての対応を説明させてもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等に本人や家族の思い、状況等を確認して、どの様な支援を必要としているのかまた適切なサービスとは何かを見極め説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ひとつの家族として利用者様と寄り添いながら、毎日笑いのある生活を送ります」と理念に掲げ、お互いが協働しながら生活する等、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきをご家族に伝え、ご家族より情報や意見を頂きながら本人と家族の絆を大切にして家族と職員が共に本人を支えていくよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開かれたホームを理念に掲げ、馴染みの人が多く面会に来て頂ける様努めています。また同施設内デイケア・老健にいる知人・友人を訪問したり、自宅への帰宅支援を行ない馴染みの方との交流を図っています。	関わりがあった地域等への行き来や馴染みの人との交流が楽しめるよう、また自宅への一時帰宅支援にも取り組まれ、継続的に支える体制作りに取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席を工夫しながら、職員も利用者と一緒に食事をしています。利用者同士の関係がうまくいこう、見守りや働きかけを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら必ずお見舞いに行き、必要な方には経過をフォローしながら、相談支援を行なっています。併設事業所に移られた方には利用者と一緒に遊びに行ったり、来てもらったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有しながら日々の関わりの中で声をかけ把握に努めています。意思疎通が困難な利用者には、表情や態度から推測したり、家族に聞いたりして、本人本位に検討しています。	認知症という状況の中で、会話や伝えにくいこともあります。常に声をかけをしながら、利用者の表情、しぐさの中から本人の意向を理解され、支援に取り組みが伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時や利用後も折に触れ、ご本人や家族から聞き、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や心身の状態を把握し、その方の出来る事、出来ない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにし、計画作成担当者、介護リーダー、受け持ちの三者で計画を作成、必要に応じ、職員全体でケースカンファレンスを行っています。	利用者・家族の意向を聞き入れ、ケアに関わりを持つ介護職と連携を密にしながら、全員で介護計画を作成し、また利用者の変化等が見られた時は、計画の見直し出来る体制作りが伺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はケアプランに沿った記録にと努めています。全員分を一枚に記した日々の記録や送りノートは勤務開始前に必ず見る様にして情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体験入所出来る部屋を一室整備しています。通院や送迎等支援も柔軟に行なっています。併設老健より医師・看護師・作業療法士・管理栄養士等に相談、指導、協力してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる慰問、また餅つき大会、夏祭り、防災訓練時にボランティアに手伝って頂く等、ボランティアと協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっています。歯科や皮膚科、眼科等専門医を受診する必要がある時は本人や家族に相談し、希望に沿うようにしています。	利用者及び家族の意向に沿い、主治医は母体の医療機関となっています。受診にはホームの看護師が同行し、情報提供や相談等を行い、適切な医療提供や説明を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきを看護職に伝え、状態の変化に応じた支援を行なっています。併設施設の医師や看護師に相談できる体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は紙面によりお互いに情報提供しています。なるべく早期に退院できる様に医療機関と話し合い、実施されています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化した場合や終末期のあり方について、事業所が対応できる事を説明し、家族より意思確認書を書いて頂いています。体調変化時には家族の意向を再確認しています。	併設施設の医師やかかりつけ医との連携のもと、重度化した場合や終末期のケアについて、利用者と家族の意向を確認しながら望む支援体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しています。急変時に備えて落ち着いて行動が取れるよう、職員間でカンファレンス並びに訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、津波の避難訓練を施設全体で実施しました。火災避難訓練は夜間も想定して行い、訓練時には近所の方にも参加して頂きました。	年3回法人全体の避難訓練を行い、火災、自然災害を想定した実践的な取り組みを行っています。訓練には地域の人々の参加もあり、避難場所の確認、避難後の利用者の見守りの協力をお願いしています。又緊急通報装置が備えられ、食糧の備蓄も3日分確保しています。	利用者も参加した訓練や地域住民の災害時の具体的な協力体制の構築もできています。訓練は法人全体で行っていますが、今後は事業所独自の訓練も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を全職員で心掛けており、利用者間でも個人の誇りやプライバシーが保たれる様配慮しています。	年1回の勉強会や毎月のミーティングを通じ、尊厳やプライバシーの確保、接遇の重要性を学び、意識を高めています。何気ない言動の中に潜む、失言に気付いた時は職員間で注意喚起し合える、コミュニケーションもできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に声掛けを行い、無理強いはいないようにしながら、利用者本人の希望に沿う援助を行っています。意思表示が困難な利用者には表情や態度で気持ちを汲み取りながら援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら、少しでも楽しく過ごせるように柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を聞きながら、身だしなみやおしゃれの支援を行なっています。美容院も要望に応じて対応しています。ネイルアートも行い、好評でした。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでの昼食作りを週3回行っています。野菜の皮むき等利用者様に出来ることははいていただき、月1回は利用者主体の昼食作りに挑戦しています。食事は利用者と一緒に楽しく摂取しています。	食事は施設全体で同じメニューの物を食べていますが、週3回の昼食は、ホームで利用者と共に作られています。利用者の食べたい物や好物を聞きメニューに取り入れており、食事作りでは利用者にも個々の能力に合わせて手伝ってもらい、できない方も味見をすることにより、食事作りに参加しています。	利用者主体で昼食作りを行う事は、利用者の支援にとっても効果があり、生き生きとした笑顔が見受けられました。今後も更なる工夫をされ継続する事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記録し管理しています。GHでの食事作りも栄養バランスを配慮し献立を作成、量や調理法も個人に合わせて工夫しています。水分補給は利用者によって居室にお茶を置き飲んで頂いてま		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人の力に応じて行っています。定期的に(週1回)義歯洗浄剤を使用しています。月1回歯科衛生士による口腔内チェックも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄管理を行っています。一人一人の力に応じた排泄支援を行ない、失敗しても自尊心を損ねない対応を心がけています。	排泄チェック表の記録により、個々のパターンを把握し、時間での誘導や利用者の様子を観察し、さりげなくトイレ誘導をしています。排泄の失敗があっても部屋で交換するなど利用者のプライドが傷つかないように配慮と対応を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や運動、腹部マッサージに努めています。便秘がちな方にはバナナや芋類の摂取等、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者ごとに入浴に対する希望を聞き、時間・回数を決め、希望に応じ入浴剤も入れています。入浴中は一人一人に合った会話や介助をしながら、ゆっくりとリラックスして入浴を楽しめるように支援しています。	入浴は基本的には週3日としています。毎日4～5名が交代に入浴しており、希望があれば毎日の入浴も行っています。利用者のこれまでの生活習慣や身体状況に合わせた入浴になっており、必要な利用者は機械浴も実施され一人ひとりに合わせた支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人、その時の状況に応じ安眠や休息が取れる様支援しています。共用スペースや畳コーナーがあり、何時でも活用できます。夜早く休まれる方もいるので、廊下の灯りを早めに消す等、安眠の工夫もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の一覧表を冊子にまとめ、職員がいつでも閲覧でき、理解するようにしています。誤薬のない様に確認し合いながら与薬しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(折り紙・生け花・パズル等)や散歩、レクリエーション、体操、また洗濯物をたたむ等利用者一人一人の力に応じた役割を持って頂き、生きる張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩を積極的に行っています。ドライブや桜等の名所見物、また家族の協力を得ながらドライブをかねての自宅訪問等、一人一人のニーズに応じた外出支援を行なっています。	利用者のその日の希望にそって、ホーム周辺の散歩を日常的に行っています。又ドライブ、買い物等気候や利用者の心身の状況に応じ外出を支援しており、家族の協力で自宅訪問も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員で所持金を預かり管理していますが、買い物時には力に応じ、ご本人にお金を持って頂き、支払をしてもらうようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に沿ってかけて頂いています。手紙は年齢的に書くのが困難になっているので、今年こそは本人の写真入りの年賀状を試みる予定です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜は光や音、特に就寝時間帯に支障が無い様につけています。季節感を出す様利用者と共に共用空間に飾り付けを行っています。また生花教室で生けたアレンジフラワーや庭に咲く草花を飾りリビングに彩りを添えています。	音や光の刺激が利用者のストレスにならないよう全職員が日常的に注意を払うと共に、利用者や家族、外来者等の感想を聞きながら、居心地良く過ごせる空間作りに努めています。ホールには季節感のある飾りつけや庭にある草花を生けたりと五感刺激や活動に繋がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内では共用スペースのソファや畳コーナーで居場所を作っています。また廊下一角に2箇所イスを置き、独り・少人数でくつろいで頂いています。屋外では中庭のウッドデッキや玄関を利用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら好みの物や馴染みの物を置いています。また本人や家族の写真、生花や押し花の自作品等をタンスの上等に飾っています。掃除も毎日行っています。	利用者、家族の意見を尊重し、写真や馴染みの物を置き、自宅とのギャップを少しでも埋めるよう工夫をしています。同時にプライバシーの保護にも十分に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、手すりを多く設置しています。トイレ内は車イスと介護者が同時に入れる様広く作っています。風呂場の浴槽に手すりを設置しています。		